

# 勿凝学問 379

歴史の共有と人間の感情

アメニティフォーラムで話をした「礼儀と歴史」

2012年2月11日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

障害者福祉関係のひとたち1600人あまりが天津プリンスホテルに二泊三日で集まるアメニティフォーラム——参加は、今年で3年目（[勿凝学問 285](#) 参照）。

一昨年 2010 年は、3 日目に 4 人の 1 人として登壇。（[2010 年プログラム](#)）

11:20

**福祉社会の未来を描く～優しい社会を創るために必要なこと～**

12:50

辻哲夫（東京大学高齢社会総合研究機構教授） 権丈善一（慶應義塾大学商学部教授） 衛藤成一（元厚生労働副大臣・参議院議員） 進行 大熊由紀子（国際医療福祉大学大学院教授）

昨年 2011 年は、1 日目の 2 人の 1 人として登壇。（[2011 年プログラム](#)）

15:00

**基調対談 分配・再分配問題としての障害者福祉問題**

16:30

権丈善一（慶應義塾大学商学部教授） 聞き手 野沢和弘（全国地域生活支援ネットワーク）

そして、今年 2012 年は 2 度出場で、1 日目の基調講演と 2 日目のパネルディスカッション。

（[2012 年プログラム](#)）

1 日目

14:05

**基調講演 「社会保障と税の一体改革」と我が国の医療・介護の将来 ～世界における財政破綻リスクと我が国の財政見通し～**

15:30

権丈善一（慶應義塾大学商学部教授）

2 日目

10:35

**シンポジウム 新しい社会保障のあり方について**

権丈善一（慶應義塾大学商学部教授）

湯浅誠（反貧困ネットワーク事務局長、内閣府参与）

田島良昭（社会福祉法人南高愛隣会理事長）

横倉義武（日本医師会副会長）

コーディネーター：野沢和弘（毎日新聞社論説委員・全国地域生活支援ネットワーク）

1年目に30分ほど時間を使って自己紹介を兼ねた報告をと言われて「日本の社会保障・財政の概略」を話し、2年目は「障害者福祉問題の日本の特徴」を話した。そこで今年の基調講演は、時間も十分にあったので、過去2回との重複を避ける意味もあって本題に入る前のプロローグとして、人間の本性というべきか、公共政策に対する人間の感情というものがどのようにして形成されるのか、そうした人としての感情の形成に歴史認識がいかにか作用するのかというような、僕の話聞いた人たちが、このフォーラムが終わって家に帰った後も、心の片隅のどこかに沈殿するような話をしようと思っていた。そこで、ひと月前くらいから意識していたテーマが、「礼儀と歴史」という話であった。

礼儀というのは、そうした礼儀作法を知らない者どうしの間では、作法からはずれようがどうしようが、互いに怒りというような感情は生まれてこない。しかし、いったん一方が礼儀作法を知ってしまえば、礼儀をわきまえない相手の言動にかなり激しい憤りを覚えることがある。そして共通の礼儀を知る者どうしの、互いに礼儀をわきまえた言動には、かなり心地よい感覚を共有することもできる。礼儀というのは、人間の感情に、どうもそういうふうに通ずる。

この、「礼儀」という制度(*institution*)が人間の感情に作用する仕方が、実は、「歴史」という知識とかなり似ているということが、僕がアメニティフォーラムで話そうと思っていた「礼儀と歴史」の話であった。僕が、社会保障や財政の専門家でない人たちを相手に話をする時には、まずは、状況がここに至るまでの歴史的経緯を説明する。歴史的経緯を知ってもらわないと、的確な現状評価、そして今後の展開への確からしい予測が、できそうにないからである。そして、ここに言う「現状評価」というのは、良し悪しという価値判断を含む人間の感情の表れであり、この人間の感情の表れには、歴史的経緯への理解というものが強く影響してしまうものなのである。僕が昔から、歴史観と価値観は表裏の関係と表現していたことである。

つまりは、政治現象に対する立場の違いは、過去の出来事に対する歴史認識の相違によって異なっており、これはちょうど、礼儀作法を良く知るものと知らない者との間での人間社会のセグメントと似たような関係にあるわけで・・・などということをお話しようと思っていたちょうどその頃、アメニティフォーラムの一週間前あたりに、おもしろい教材が世に出回ってきたわけである。それは、**Youtube**の映像であるが、何も知らない人でもこれを見れば瞬時にして、僕に近い歴史的体験ができるという代物であった。

そこで、アメニティフォーラムでは、次のスライドを表示して、「礼儀と歴史」の話をしおぼした後、その延長線上の話として、リンクを貼っていた**Youtube**のボタンをクリックした。

# 礼儀と歴史

- [Youtube](#)

ボタンを押して、みんなにみてもらった映像は、次である。

- [Youtube](#)

3分6秒間、この映像をみてもらい、次は、時間を5分間与えるので、感想文を書いて下さいとお願いする。

みんな、懸命に感想を書いてくれた。

5分経過後

さて、みなさんはどういう感想を書きましたか？

ここで、映像の前半部分の言葉を紹介しておきますと、

マニフェスト、イギリスで始まりました。

ルールがあるんです。

書いてあることは命懸けで実行する。

書いてないことはやらないんです。

それがルールです。

書いてないことを平気でやる。

これっておかしいと思いませんか。

書いてあったことは四年間何にもやらないで、

書いてないことは平気でやる。  
それはマニフェストを語る資格がないと、  
いうふうにぜひみなさん思っていたきたいと思います。

その一丁目一番地、税金の無駄遣いは許さないということです。  
天下りを許さない、渡りは許さない。  
それを、徹底していきたいと思います。

消費税1%分は、二兆五千億円です。  
十二兆六千億円ということは、消費税5%ということです。  
消費税5%分のみなさんの税金に、天下り法人がぶら下がってる。  
シロアリがたかってるんです。

それなのに、シロアリ退治しないで、今度は消費税引き上げるんですか？  
消費税の税収が二十兆円になるなら、またシロアリがたかるかもしれません。  
鳩山さんが四年間消費税を引き上げないといったのは、そこなんです。  
シロア리를退治して、天下り法人をなくして、天下りをなくす。  
そこから始めなければ、消費税を引き上げる話はおかしいんです。  
徹底して税金の無駄遣いをなくしていく。  
それが民主党の考え方です。

この映像をみて、政権交代前の彼と政権交代後の彼は、まったく違うことを言っているのは分かる。そして、彼が、政権交代前と政権交代後で180度変わってしまったという歴史を知ったみなさんは、彼の変化になんらかの憤りを感じたと思います。政治家というのは、言葉で未来を約束する仕事とも言えますから、今や、社会保障・税一体改革についても、TPPについても、彼は滔々と流れるようにウソをついているだけで、その言葉をまったく信用できないことが明らかとなった彼は、政治家と呼べる存在ではないことだけは確かです。少なくともそれだけは全員が共有できる。しかしながら、この映像をみたひと全員が、他に解釈のしようがないたったひとつの歴史を共有できたかという、そういうわけではない。そこが、このYoutubeの映像のおもしろさだと思います。

みなさんの感想文には、次のスライドに要約できるような、ふたつのパターンがあるはずで

つまり、政権交代前に、財源はいくらでもあったと言った言葉が、本当なのか大ウソなのか、政権交代後に、増税しなければ財源はないという言葉が、大ウソなのか本当なのか。

## 感想文の二つの構造

	政権交代前 財源はいっぱいある	政権交代後 増税の必要がある
パターンI	本当	大ウソ
パターンII	大ウソ	本当

先ほどの映像はこの一週間、とても盛り上がっていましたので、テレビで放送している報道番組をいくつか見たことがあります。しかし、私がみたコメンテーターの感想の100%がパターンIの感想でした。アメニティフォーラムは、過去2年間、僕の話聞いたことのある人が結構いるので、その人たちは、パターンIIの感想。だがそれでも、フロアーの人たちのほとんどが、パターンIの感想。となれば、世間ではどういうふうを受け止められているのかは、想像に難くない。

そこで、先ほどの映像に登場した彼が、政権交代前にどのようなことを言っていたのかを確かめるために、次の映像をみてもらう。

- [シロアリを退治して働きアリの政治を実現](#)

この街頭演説では、次のようなことが発言されている。

私どもは、マニフェストみなさまにお配りをしております。  
魂を込めて今回はマニフェスト作りました。  
私たちの、このマニフェストの一丁目の一番地は、  
税金の無駄遣いは許さないということでありませう。  
徹底して天下りをなくす、そして渡りは認めない。

こうした税金の無駄遣いを徹底することによって、  
お金を生み出していき、16兆8千億円、

民主党のマニフェストを実現するには新たな予算が必要になります。

私たちは、財源は見つけることができるんです。

一般会計は 80 兆円ほど、特別会計合わせると 207 兆円

この特別会計には無駄がいっぱいあります。

私はこの特別会計改革の責任者をやってまいりました。

一般会計は黒い皮の財布です。

1 万円やカードが入っている。

そのほかに 21 の特別な財布が、

お尻のポケットや靴裏にいっぱい入っているんです。

でも、21 の特別会計、21 の離れでは、

私たちが調べた限りでは、すき焼き食べ放題、

焼肉食べ放題、ビール飲み放題、焼酎飲み放題

無駄遣いはいっぱいやってます。

ここから 16 兆 8 千億円財源を作ることは十分可能であります。

無駄な事業をやめて、本当に必要なところにお金を回していく

これが政権交代です。

政策の優先順位を決めて、本当に必要なところにお金を流していく、

予算をつけていくこれが民主党の考え方であります。

財源はいっぱいあります。

天下り法人に 12 兆円もお金を使ってる国です。

シロアリを退治して働きアリの政治をたまには実現しようではありませんか。

さて、この街頭演説で重要な言葉は、「私たちが調べた限りでは」です。当時、メディアは、彼らが調べた調査報告書を取り寄せて、調査内容を精査する必要がありました。ところが、メディアはそれを完全に怠った（[勿凝学問 374](#) 参照）。そして、国民の多くは、彼が街頭演説で得意の口調で語る「消費税 5% 分の天下り法人」という話を記憶の底に刻み込まれた（[勿凝学問 247](#) 参照）。ここで、彼ら民主党のそうした発言へのチェック機能を果たしたのは、当時与党の自民党だけでした。

自民党は、上記のことと同じ内容の話をする当時の鳩山代表に公開質問状をだします。

- [公開質問状](#)

公開質問状の重要箇所抜粋

...

わが党は、貴殿の発言があまりにも常軌を逸しているため、さっそく貴党が衆議院の調査局に作成を依頼した資料を取り寄せ、検証しましたが、その結果、貴殿の発言は、一面の事実のみを持ってそもその政策目的や必要性など、すべてを切り捨て、葬り去る暴言であり、国民を誤解させ、欺き、プロパガンダで民主主義を破壊する暴挙であって、看過すべきではないとの結論に至りました。

貴党は、来るべき総選挙で政権交代を主張しておられます。当然、その代表の発言は重く、国民に大きな責任を伴わなければなりません。わが党は、貴殿の発言は、もし民主党が政権を獲得した後には、この 12 兆 1000 億円の国家予算は廃止し、関係団体への天下りはすべて廃止することを国民に公約したものであると受け止めます。

...

#### 質問事項

1. ...
2. 貴殿の発言は、事情を知らない国民が聞けば、天下り団体に天下っている官庁 OB の人件費として国から 12 兆 1000 億円が流れているかとの誤解を与えかねません。しかし、現実的に試算すれば、平均給与を年収 700 万円とした場合、1 万 4665 人の給与総額は 1026 億円、12 兆 1000 億円の 0.8%にすぎません。しかも、これは人件費がすべて国費で賄われていると仮定した場合の数字です。つまり、残る 12 兆円は政策目的をもった支出であるという事実が、今回、貴党作成依頼の資料によって明らかになったわけですが、この事実について、見解をお示してください。

先日、当時の自民党幹事長の細田さんが国会で話していましたが、この公開質問状に対する民主党の回答は、「常軌を逸したプロパガンダだと驚いている」だったそうです。

さて、先ほどの話に戻ります。

自民党が公開質問状で訴えていることは、自民党嫌いの人には残念でしょうけど、ことごとく正しい。となれば、正しい歴史的事実に基づくべき、さきほどの感想文の構造は、パターン I は棄却され、パターン II しか残らないこととなります。

## 感想文の二つの構造

	政権交代前 財源はいっぱいある	政権交代後 増税の必要がある
パターンI	本当	大ウソ
パターンII	大ウソ	本当

ところが、世の中の圧倒的多数、いや、ほとんどすべての人が、Youtube の映像「[マニフェスト 書いてあることは命懸けで実行](#)」をみての感想がパターン I の構造をしているわけです。これは、永田町や霞が関に居る人たちには信じ難い話なのかもしれないけど、世間というのは、Youtube の映像に出てくる彼は政権交代前には正しいことを言っていたのに、権力の座につくと、シロアリたち、特に財務官僚に籠絡されてしまってダメになってしまったとみているのが現実です。

そこが、この国が抱える問題の根の深さを物語っているとも言えます。

なぜ、日本人の多くが、歴史的事実とは異なるパターン I の感想を抱くのか？

その問題を考えるヒントが、『ゲートの警告』という本にあります。この本の「はじめに」は、次の文章で始まります。



### 3 はじめに

はじめに

今、日本を動かしているのは誰だと思えますか？

内閣総理大臣ですか？

財務官僚ですか？

アメリカですか？

いいえ、違います。

B層です。

B層とはマスコミ報道に流されやすい「比較的IQの低い人たち」です。

二〇〇五年九月、いわゆる郵政選挙が行われ、小泉純一郎率いる自民党が圧勝しました。

「郵政民営化に賛成か反対か」「改革派か抵抗勢力か」と問題を極度に単純化することで、普

段モノを考えていない主婦や老人、低学歴の若者の票を集めたわけです。

この勝利の背景には、内閣府が広告会社「スリード」に発注した「郵政民営化を進めるための企画書」の存在がありました。

ここに記されている「郵政民営化を進めるための企画書」とは、次の報告書です。

- [「郵政民営化・合意形成コミュニケーション戦略\(案\)」](#)

『ゲーテの警告』は、続けて、「小泉純一郎は“IQの低い人たち”の圧倒的な支持を得たわけです。後年、同じ手法を使ったのが民主党でした」と述べます。このあたりのところは、小泉さんが引退表明をした日に、わたくしが次の文章を書いていることと関係があるかもしれません。

- 勿凝学問 178 [度を越えた官僚叩きという小泉路線の一番の後継者は小沢民](#)

この企画書は、国民をA層、B層、C層、D層に分類し（詳細は後述）、「具体的なことはよくわからないが小泉純一郎のキャラクターを支持する層」をB層と規定しています。そして、このB層に向けて小泉のワンフレーズ・ポリテイクスが集中的にぶつけられたのです。

マーケティングの手法を露骨に政治に応用することの是非はともかく、その狙いは的中しました。小泉純一郎は、「IQの低い人たち」の圧倒的な支持を得たわけですから。

後年、同じ手法を使ったのが民主党でした。

「政権交代か否か」「民主党の改革か自民党の古い体質か」と単純な対立の構図をつくりだし、マスメディアを最大限に利用しながら選挙をやった。

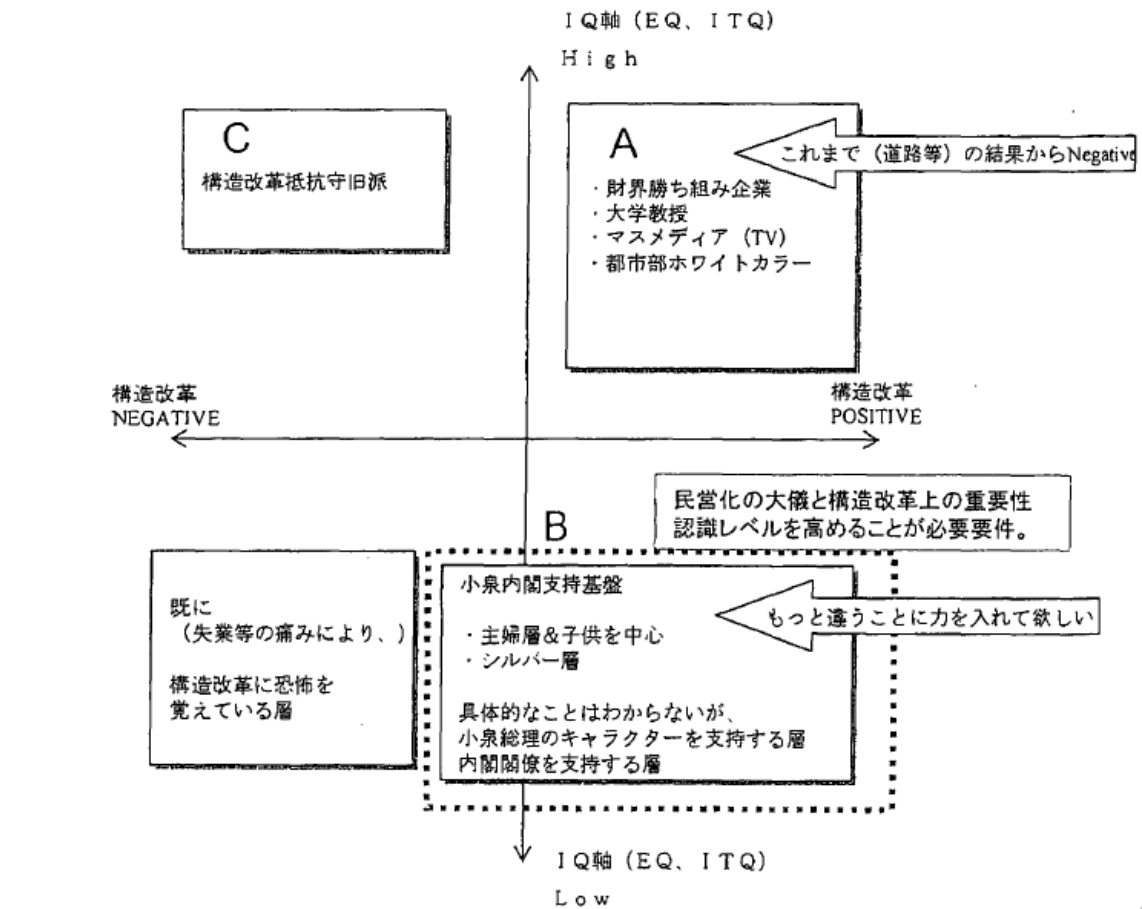
やがて、民主党のマニフェストのほとんどが詐欺だったことが明らかになると、B層の人々は「民主党に期待したけど騙された」と非難するようになりました。

しかし、彼らは永遠に騙され続けます。

なぜなら、選挙前の時点でマニフェストが詐欺であることは少し考えればわかることだったからです。当時、多くの識者がマニフェストの矛盾を指摘していましたし、情報も十分にあつた。

民主党に政権をとらせた責任は自分たちにあるのに、彼らは絶対に反省しません。

なお、先の「[郵政民営化・合意形成コミュニケーション戦略\(案\)](#)」には、次の図があります。



**B層にフォーカスした、徹底したラーニングプロモーションが必要と考える。**

続けて、『ゲートの警告』は、「こうして議会は地に落ちました。B層の、B層による、B層のための政治が今や現実のものになろうとしております」（5頁）と述べ、「民主党は、職業的詐欺集団とみなされても仕方がないでしょう」（116頁）とも書いています。

自分たちに正義があると思いついでいるのがB層だからです。自分たちは被害者だと思いついでいるのがB層だからです。無制限に拡大した権利意識と被害者意識がB層の行動を規定します。

わが国ではB層が急激に拡大しています。その結果として、B層に支持された「B層政治家」が増えてくるのは自明の理です。

B層政治家は、ひたすら大衆に媚びます。

「官から民へ」

「民意を問う」

「国民の審判をおおぐ」

こうして議会政治は地に落ちました。

「B層の、B層による、B層のための政治」が、今や現実のものになろうとしております。それだけではありません。衣食住、文化、スポーツ、すべての分野において、わが国では急速にB層化が進んでいる。

誰もがうつつすらと気づいていたけれど、表立つては言えなかったこと。それは、今の日本の最大の権力者がB層であるということです。B層が拡大することで、B層の理屈が横行す

二〇一〇年六月三〇日、菅は青森市で演説し、消費税を増税した際の低所得者対策として「年収二〇〇万円とか三〇〇万円の人に還付する制度」について考えたいと述べている。

その後、秋田市の演説では「年収が三〇〇万円とか三五〇万円以下に還付」、山形市の演説では「年収三〇〇万から四〇〇万円以下に還付」と発言がブレまくりました。

二〇〇万円と四〇〇万円では倍も違います。しかも、年収三五〇万円以下に還付した場合、約四割の世帯が対象になるので、消費税増税そのものが意味をなしません。

要するに、こうした思いつきのパフォーマンスでなんとかなると思っっている。

そもそも経済に疎いので、数字のことはよくわからない。リフレ派が菅に進言したそうですが、リフレと言ってもセフレのことしかわからないのが菅直人の実態です。

#### マニフェスト詐欺の真相

民主党政権誕生によりわが国は国際社会の信用を失い、内部から崩壊する道を突き進んでいるように見えます。政権獲得後の愚行の数々を振り返れば、**民主党は「職業的詐欺集団」**

**とみなされても仕方がないでしょう。**

民主党は、無駄遣いの削減や予算の組み替えによって二〇一三年度に一六兆八〇〇〇億円の財源を生み出すなどと小学生でもおかしいと思うようなことを唱えていましたが、やはり

さて、本日ご出席のみなさんは、今日、目の前で展開されている現実の政治を、どのように評価されますか？

今日の、わたくしの講演の前、すなわち、わたくしと歴史認識を共有する2段階前、つまり、彼らは流暢に大ウソをつく「職業的詐欺集団」ともみなされ得る集団であるという第1段階目の歴史認識と、今なお次々とウソをつき続けなければならない原因が、政権交代後ではなく政権交代の前にあったという第2段階目の歴史認識を共有する以前と、今とでは、随分と今の政治への評価が変わってきたかと思われます。彼らは、マニフェスト全般の財源問題にしる、年金にしる、高齢者医療にしる、自立支援法にしる、そして普

天間の問題にしろ、デマゴグと呼ばれて良いほどの信じがたいウソをつらねており（[勿凝学問 293](#) 参照）、そして今日も、昨日も、年金試算をめぐる話をはじめとしてウソの上塗りを行っています。今やみなさんは、彼らの言動への評価や、彼らを眺める際の感情の動きというものが、かなり私に近づいてきているはずです。

2009年8月30日の総選挙の翌日、私は政府の仕事に辞表を出しています。その頃、私がどのようなことを考えていたかと言いますと、

## 総選挙直後

- [勿凝学問253 血祭りやだまし討ちにかかわるのは僕の仕事ではないんだよ——それが僕と政治学者の違いかな](#)

[勿凝学問 253 血祭りやだまし討ちにかかわるのは僕の仕事ではないんだよ——それが僕と政治学者の違いかな](#)

まあ、今や消費税を含めた税制改革が必要なことは高い知性などを持ち合わせずとも分かりきっていることだから、今後起こることは、政治センス(?)に充ち満ちた政治家たちのリーダーシップのもとで、万が一巧く展開するとすれば、冬の時代を生きる官僚をはじめとした人たちを血祭りに上げて国民の溜飲を下げてあげたり、血祭りをみて歓喜する国民をだまし討ちにして、マニフェストをうやむやにすることくらいかな——巧くいけばそういうことになるだろう。でも、血祭りやだまし討ちに協力することは僕の仕事ではないというだけの話である。僕と違って、政治学者ってのは、そういう血祭りやだまし討ちを嬉々として議論しては盛り上がっているように見えるのは昔からのことだけど、いいんじゃないかな、政治学者、そしてメディアの中の政治部ってのは、そういうのも仕事みたいだから。僕の仕事は、政策技術学として使える学問をできる限り総動員して、あるべき社会保障、あるべき税・財政の制度設計、あるべき社会経済制度の設計を行うことであり、政策技術屋としての僕は彼らとは根本的に仕事の質が違う。

こうした僕の仕事の性質と、政治が血祭りやだまし討ちの道に入ってしまった今、一昨

日も、昨日も、そして今日も、原稿やインタビューの依頼を断ったこととは無関係ではない。お断りの連絡を受けた方々、つれない返事で申し訳ありませんでした。

...

政権交代後、はじめて私がインタビューを受けたのは、総選挙からおよそ2年経った昨年7月12日の『朝日新聞』です。6月30日に、社会保障・税一体改革成案がまとまりましたので、こればかりは仕方がないと思ってインタビューを引き受けました。そのインタビューの最後は、次の言葉で終わっています。

「[耕論 どうする社会保障と税](#)」『朝日新聞』2011年7月12日

...

もっとも、「増税しなくてもやっていける」と主張する政治家はまだいる。彼らにもう一度、国政を握らせ、それが失敗して初めて、国民は現実を直視できるのかもしれない。かつて福沢諭吉が言ったように、「この人民ありてこの政治あるなり」なのだろう。

参考資料

「[”この人民ありてこの政治あるなり”の今日的な意味合い](#)」『三色旗』749号(2010年8月)

政権交代後、この政権にかかわった人の中には、当然ながら今、後悔している人もいます。今から考えれば、当時の私は、政権交代後の新政権への評価はかなり見誤ることなく、そして、その後の展開もかなりの確に予測できていたと思います。それも、2009年の政権交代が起こるまでの歴史的事実を、他の人よりも正確に把握していたからだと思われま。そういう私から、みなさんにひとつアドバイスできるとすれば、次でしょうか。

このフロアーに、2005年に小泉郵政選挙に盛り上がり、2009年に民主党に大いに期待した人がいるとしますと、そういう人は、次の選挙には行かない方がいい。

静まりかえった会場で、その後、講演は、本題に入る。

...

大津から東京に戻り、帰宅後

> 来年もどうぞよろしくお願いします。

いえいえ。

これからは、3年に一回ペースかな(笑)。

追記

2009年の総選挙直後に書いた文章は次です——お手すきの時にでもご笑覧下さい。

- 勿凝学問 251 [民主主義とは「最大多数の最大幸福」か、それとも「多数の専制」か？——ベンサムとジョン・スチュアート・ミルが観たそれぞれの世界](#)